

練習課題 NO.10 介護老人保健施設 計画の要点等

(1) 建築計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。

① 建築物の外部動線及び内部動線について、配慮したこと

外部動線は、幅員の広い歩道付の東側道路からメイン出入口を設けました。歩車道を分離することができるように、道路境界線から歩行者とマイクロバスの出入口を設けました。サブ出入口は北側道路から関連させ、サービス用2台分と管理者の動線に配慮しました。

内部動線は、エントランスホールから各室へ向かうために利用者用エレベーター(寝台用)・階段を配置し、縦動線に配慮しました。サブ出入口から管理者用の縦動線には、管理者用エレベーターと管理側の階段を利用する計画をしています。

② 敷地の周辺環境に配慮したこと

西側には、公園がありますので、ダイルーム(1)(2)と2階の宿泊室、基準階の療養室の一部を景観に配慮しました。宿泊室と療養室は、陽ざしが入る開口部を東側と西側に設け、南側の隣地には、集合住宅がありますので、それに面する部分の開口部を少なくしています。

③ 避難計画について、配慮したこと

階段は2ヶ所設置し、北側と南側の両端に設けました。北側の階段は、管理を中心に利用するよう計画しましたが、災害時には2方向避難経路としての利用を考え、バリアフリー法に適応した階段としました。

④ 車寄せについて、配慮したこと

車寄せについて配慮したことは、マイクロバス利用者の動線に配慮して、メイン出入口までの車寄せを設けています。メイン出入口までマイクロバスが移動できるので乗降時には、利用者にとっても便利な計画です。

(2) 構造計画について、次の①～②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。

① 建築物の構造種別、架構形式及びスパン割とこれらを採用した理由

建築物の構造種別・架構形式は、耐久性、耐火性、安全性、居住性を確保するとともに、この課題の室面積が 50 m²に関連するものであることに対応して、柱スパン 7m×7m(面積 49 m²)とし、経済的にも配慮した鉄筋コンクリート造としました。

② 耐震計画について、配慮したこと

耐震計画について配慮したことは、建築物の全体を構造上より剛なものになるよう、2カ所の階段の位置に平面的にバランスよく耐力壁を設けました。立面的には、上下階の同じ位置になるように耐力壁を配置しました。

(3) 設備計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図書では表せない部分についても記述する。

① 建築物に採用した給水方式と採用した理由

給水方式は、水道直結増圧方式を採用しました。増圧設備を直結し、給水管内の水圧を増圧し給水する方法です。敷地には余裕がないように計画しましたので、ポンプの設置だけで良いため設備スペースを抑えることが可能です。

② 設備スペースの配置計画について、配慮したこと

設備スペースは、機械室の設置を抑える計画としました。キュービクルは屋上に設置し、全館に個別利用のできる空冷ヒートポンプパッケージ方式を採用し、屋外機を屋上に設けました。また、スプリンクラー設備のポンプと浴室給湯設備のボイラー及び給水の増圧ポンプを1階の設備機械室に設けました。

③ 防災設備について、配慮したこと

防災設備につて配慮したことは、消火設備はスプリンクラー設備を採用しました。合わせて、火災は早く発見すれば大事に至らぬ可能性があるため、自動火災報知設備を設けました。また、2階から5階にバルコニーを設け、火災があった場合には避難待機できるよう計画しました。

④ 排煙設備について、配慮したこと

排煙設備については、室面積の 1/50 以上の排煙上有効な開口部を適切に設け、自然排煙設備としました。各室が出来るだけ適切に外部に面するように配置し、それぞれの開口部から排煙できる計画としました。

試験場	受験番号	氏名
		建築士.com